Libra
http://www.t-kcon.org/

Libra Vol. B023
2011年1月1日発行

発行/植村実敏　東京都計量器コンサルタント協会
〒105-0022 東京都港区海岸1-7-4 東京都計量検定所内
TEL 03-3434-6591　FAX 03-3434-6592

計量の安心・安全・信頼を推進する
計量器コンサルタント

------CONTENTS------

●植村会長、新年のご挨拶----------①
●「都民計量のひろば」開催される----------①
●「計量記念日のつどい」開催報告----------①
●「東西計コン」JFEスチール見学会----------②
●会員の広場「企業紹介」「計量コラム」------②

新年明けましておめでとうございます！
植村会長「新年のご挨拶」

あけましておめでとうございます。会員皆様のご協力によって、昨年中に計画された諸事業は無事に終了することが出来ました。厚く御礼申し上げます。また、皆様にとって本年が繁栄の年でありますように、ご祈念申し上げます。

さて、昨年度は、開発途上国の経済成長や国内のエコ住宅、エコカー、エコ家電等に対する助成金効果などにより、サブプライム問題以降の冷え切った経済が最悪期を脱したかに見えました。

しかし、最近になって周辺海域がにわかに騒々しくなり、再び冷水が浴びせられた感があります。

・中国漁船が海上保安庁の巡視船2隻と衝突して船長逮捕
・ロシアのメドベージェフ大統領が北方領土・国後島を訪問
・北朝鮮軍が黄海上の南北軍事境界線に近い延坪島を砲撃

海底資源、制海権、漁業資源、トップ交代の権威付け（？）などなど、理由はそれぞれの国や地域で異なりますが領土問題の根は深く、それでなくても迷走する民主党にとっては、かなり大きな負担になりそうです。

ところで、昨年度の総会において、「高度の知識・スキルを持つ計量器コンサルタント」として認定された『シニア計量器コンサルタント資格認定証』取得者が発表されました。

この資格認定証は、全国統一の「計量器コンサルタントの証明書」に加えて当会独自に発行するものですが、ますます高精度化する計量器の最新技術や最新情報を獲得し、さらなるレベルアップを図るためです。お客様のあらゆる計量現場でお役立ちするため、「計量の安心・安全・信頼を推進する計量器コンサルタント」としては当然のことであり、「シニア認定証」取得のためにさらなる精進が求められます。

最新情報が必要なのは「シニア」だけではありません。当会が企画する技術研修会、見学会、その他の行事は、お客様への計量管理コンサルティング力の向上のためであり、信頼される計量器コンサルタントになるために開催されています。全会員の積極的な参加はもちろん、前向きなご意見を出していただくよう希望します。

さらに、東京都計量協会では、今年度も早々に「計量器コンサルタント」資格取得研修会を実施することになっています。新たな会員を迎えるためにも、「計量器コンサルタント」の資質向上、地位向上のためにも、更なるレベルアップに努めようではありませんか。

2010「都民計量のひろば」
新宿駅西口で盛大に開催！

都民計量のひろば実行委員会は、「2010都民計量のひろば－くらしと計量」を、11月1日の午前10時半から午後4時まで、東京・新宿駅西口広場イベントコーナーで盛大に開催した。

都民計量のひろばは「健康と計量コーナー」「食品と計量コーナー」「環境と計量コーナー」「ガス水道電気と計量コーナー」「計量体験コーナー」「計量相談コーナー」と各コーナーを設けて、クイズやゲームなどを楽しみながら、また空き時間を利用して簡易な血圧測定などを体験して、計量への関心を深めてもらうために、11月1日の計量記念日に開催している。

都民計量のひろば実行委員会は、東京都計量検定所、東京都計量協会、東京都計量器コンサルタント協会、東京計量士会、東京科学機器協会、東京都環境計量協議会、東京都計量証明事業協会、日本海事検定協会、日本穀物検定協会関東支部、日本計量振興協会、日本硝子計量器工業協同組合、イシダ、タニタ、寺同精工、松屋、日本ガスメーターエ業会関東支部、東京都水道局、日本電気計器検定所で構成している。

今回は、朝から雨模様の月曜日とあって、例年のような開幕時からの賑わいが少なく、手持ちぶさたのコーナーも見受けられたが、天候が回復すると、百貨店から流れてくる人や、お昼休みや仕事の空き時間に立ち寄るサラリーマンが増えてきた。

都計コン会員による健康と計量コーナーでは、日頃から健康に関心の高い人が、骨密度や体組成計に興味津々で、出た結果に関心を寄せていた。（写真：左）

2010「計量記念日のつどい」
東京都計量協会

（社）東京都計量協会主催の計量記念日のつどいは、11月12日の午後、東京都港区海岸のホテルアジュール竹芝で挙行した。

式典は、森川正彦専務理事の司会で進行し、まず大原芳房同会会長と島崎勉東京都計量検定所副所長から挨拶があり、ひきつづいて贈賞式が行われた。島崎副所長からは、東京都生活文化局局長感謝状（経営者の部2名、従業員の部1名、計量士の部1名、事業所の部1事業所）が贈られた。また大原会長からは、（社）東京都計量協会会長表彰（経営者の部3名、従業員の部6名、計量士の部1名）が贈られた。都計協会長表彰の従業員の部で都計コン会員の青柳松一氏（共栄衡器）が表彰された。最後に計量管理強調月間標語作品の表彰式、代表者謝辞、来賓挨拶等があり記念式典を終了した。

会場を移して懇親パーティーを開き、清宮理事の司会進行で和やかなうちに、懇親を深めた。中締めの音頭には都計コン顧問の岩下貞治氏が指名され、恒例の関東一本締めで会を締めくくった。（写真：右）

東西計コン合同研修会を11月25日に開催
JFEスチール東日本製鉄所(川崎市・扇島)を見学

東京都計量器コンサルタント協会(植村実敏会長)は、関西地域の計量器コンサルタントとの年一回の交流・親睦の機会である「第19回東西計量器コンサルタント合同研修会」を、神奈川県川崎市のJFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)で行った。参加者は東西合わせて30名。合同研修会は、年に一度、東京都および関西地域の計量器コンサルタントの交流を図り、また研修見学会を通じて、コンサルタントとしての技術向上を図るための知識の吸収に努めるもの。1年ごとに関西地域、東京地区それぞれで開催している。今回は東京都計量器コンサルタント協会が主催して、前出のJFEスチール(株)東日本製鉄所を見学した。

JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)は、川崎・横浜両市にまたがる東京湾に浮かぶ約550万平方メートルの人工島「扇島」である。ここには、高炉・転炉などの銑鋼部門、厚板・熱延などの圧延部門があり、京浜製鉄所の核となっている。また、既存地区においても、鋼管製造、薄鋼板の冷延加工・表面処理などの工程についてきめこまかにリフレッシュを図ってきた。高品質、高歩留を維持し、徹底した省力化、省エネルギー化、環境保全を実現している。使用済みプラスチックの高炉原料化をはじめとする環境・リサイクルへの取組みは高い評価を得ている。会は、午後1時半に川崎駅で集合したあと、一路バスでJFEステール(株)東日本製鉄所に向かった。まずはアメニティホール会議室で同所の紹介ビデオを見たあと、ふたたびバスに乗って所内見学に出た。岸壁に沿い原料ヤード、第1、第2高炉をバス内から見て、厚板圧延工程(工場)を見学した。なお、送迎及び見学に使われたバスは、JFEスチールの御厚意で用意され出席者全員は快適に過ごせた。

連続鋳造工程から約20tのオレンジ色の鋼片を圧延ローラに通し5～6回往復で厚さ3cmの厚板にする工程は、熱さと轟音が響くほぼ無人の工場内で行われている。この厚板工場は自動化操業を前提として設計され、合理的にレイアウトされたオールマイティ・ミルである。高精度な厚鋼板オンライン加速冷却設備スーパーOLACも導入し、熱間圧延した厚板をオンラインで制御冷却し鋼の強度を向上させている。

つぎは製鋼の要である転炉を見学した。高炉から運ばれていた銑鉄を転炉に入れて、上から高圧で酸素を吹き込み不純物を取り除き、目的に合わせた成分の鋼を作り出している。同工場では不純物除去のプロセスを分化し、転炉での脱燐のためのスラグ発生量をゼロ化することにより、大幅な合理化と品質向上が図られる「ゼロスラグ製鋼法」を採用している。

見学後は、アメニティホール会議室にもどり、同社品質・計量担当の江田正勝氏に同所の計量管理システムについてスライドを交えて説明を受けた。

午後4時過ぎに同所を発ち、駅前の川崎日航ホテルで懇親会を開き、互いの行事報告のあと懇親を深めた。

研修会

懇親会

・会・員・の・広・場・

会員企業紹介

株式会社　ワーク衡業

創業:昭和61年9月17日／代表取締役:山口精一

ワーク衡業が設立して、今年は20年目の節目に当たります。老舗企業や大手参入が多い計量業界の中では新進といえるでしょうか。
東京下町江戸川区の地に、産業用大型計量機であるトラックスケールのメンテナンスを基軸としての創業でしたが、エコ対策の先駆けとなる行政単位のごみ処理対策に社の方針を乗せ業務を拡張して参りました。
自社製造によるトラックスケールの販売はもとより、各種産業用計量機の検査、メンテナンスやオーバーホールも実施しております。
またトラックスケール業務へのコンピュータ導入にも積極的に参入し、ネット社会に対応した総合管理を、ハードウェア、ソフトウェア両面からサポートします。これら計量機の円滑な運用を目的とした計量システムソフトウェア【WORLK TRUCK STATION〈ワークトラックステーション〉通称　WTS】を開発するに至りました。
ワーク衡業では、お客様の利便性に業務理念を置き、正確な計量を維持することはもちろん、使い勝手や効率の良い計量装置を提供、サポートすることに努めています。
上記の【WTS】もこの理念に沿って開発したため、コンセプトの一つに『トリセツ(取扱説明書)を必要としないソフト』と言うものが有ります。
また、JCSS校正証明書付きの1t基準分銅を41個所有しており、顧客の要望により定期検査時にJCSS校正証明書を添付しております。社内在籍の計量士により計量法に基づく計量検査もスムーズに行うことが可能です。
現在、ワーク衡業ではもう一歩進めた形で事業展開を行っています。大型計量設備を土台から整備していく為の基礎工事や、機械設備設置に欠かせない配線・配管・配電盤設置等の電気工事、制御装置やデータ処理装置、シーケンサー等の設置・修理・リニューアルを行う計装機器設置工事。最近環境問題がクローズアップされ注目を浴びている、次世代クリーンエネルギーである太陽光発電パネル設置工事等の受注も増えています。
このような事業展開を通して、ワーク衡業はお客様から無くてはならない存在の企業を目指し、計量技術を基盤から支える会社として社会に貢献したいと考えています。

写真(左):東京本社
(中央):千葉工場
(右):ﾄﾗｯｸｽｹｰﾙ検査風景

平成23年度定時総会並びに研修会のご案内

日時:平成23年2月18日(金)　午後2時より
場所:アジュール竹芝　東京都港区海岸1-11-2
定時総会:議案及び詳細は追ってご連絡
講演会:(仮)「新JIS対応計量器の供給について」
講師:東京都計量協会　森川専務理事

計量コラム

「量目」

私たち計量人が知っているつもりが？実は知らなかった！！そんな用語を調べてみました。今回は「量目」です。

「量目」りょうもくと読みます。包装された商品の中身の重さの事で、内容総量(個包装で複数入っていても総量)を言います。現在では変化する事の無い包装容器が多くなりましたが、以前は乾燥や湿気などの影響で商品によっては中身の重量が変化する事がありました。
そこで入目(いれめ)と称して幾分かは多く商品を詰めたりしました。計量法では、その様な重さの変化に対して許容される公差が定められていて「定められた商品(特定商品)は定められた量(特定物象量)で計量して販売する時は定められた誤差(量目公差)を超えないように計らなければばらない、としています。量目公差は不足の場合のみで、多い時は適用されませんが、正確な計量と言う意味から別のガイドラインもあり、不足の基準や過量(内容量が表示量を超えるもの)の基準等も定められています。